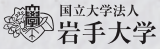




岩手大学教職大学院



NEWS Letter

岩手大学大学院 教育学研究科 教職実践専攻



問合先: 岩手大学教育学部 〒020-8550 岩手県盛岡市上田3丁目18番33号 TEL.019-621-6504 FAX.019-621-6600
E-mail edu jim@iwate-u.ac.jp URL http://www.edu.iwate-u.ac.jp/master/

この冊子はグリーン購入法に基づき基本方針の判断基準を満たす用紙を使用しています。



日々の教職大学院での学び

教職大学院での学びは、教育に関わる実践的力を磨き高めようとするものです。理論を学び、実践に取組み、そして両者を往還するリフレクション(省察)を行います。

本号では、理論を学ぶ場としての講義、実践の場となる専門実習、両者の往還とそれによる融合としての、教職実践研究報告書に関する取組での院生の様子をご紹介します。

平成30年度 教育実践研究中間発表会開催

7月13日

第2期生18名(学卒院生10名、現職院生8名)が壇上にて、それぞれのテーマにおける理論と実践の往還の軌跡を報告し、今後の道筋を協働で検討しました。当日、足をお運びいただいた連携協力校等の先生方には、感謝申し上げます。



M2中間発表会の様子



M1講義の様子(岩手の教育課題)



M2授業力開発実習の様子(現職)



M2授業力開発実習の様子(学卒)



5~6月の2週間にわたり、それぞれの連携協力校において授業力開発のための専門実習に取り組みました。単元計画を作成し、一人一人の研究テーマに沿った授業を実践するなど貴重な実習となりました。

自分の授業を見つめて

[学卒院生 (M2)] 立花 佳帆

今回の専門実習の大きな成果は、一歩引いて自分の授業を見つめたことだと思います。学んできたことを自分なりに実践してみても、上手くいかないことばかりでした。しかしそれで終わらせず、ビデオ分析や、先生方からのアドバイスをもとに、授業を客観視したことで多くのことを学びました。この貴重な経験を今後に生かしたいです。

効果的な振り返りのあり方を求めて

[現職院生 (M2)] 和田 裕之

私は教職大学院で算数授業における振り返りについて研究しています。今回の授業力開発実習では、連携協力校において自分のテーマに基づいた授業をさせていただきました。大学で学んだ理論とそれを基にした実践の往還を通して、これからも効果的な振り返りのあり方についてさらに研究を深めていきたいと考えています。

現場に生きる研究のために [学卒院生 (M2)] 小山 聖佳

私は、「特別支援教育コーディネーターに関する研究」をテーマとして、「役割認知の明確化に迫るPDCAサイクル」を報告しました。現在、実習による自己成長との比較を行いながら、理論の妥当性について検討しており、連携協力校の先生方から貴重なご助言を頂きました。今後も現場に生きる研究の視点を忘れず、邁進していきます。

外部人材の有効活用をめざして [現職院生 (M2)] 小林 一志

私は、「外部人材を有効活用するための学校組織体制の現状と課題」をテーマとして、生徒への教育効果を高めるために、地域の方々や学校外の専門性を持った人々を積極的に活用できるような学校組織体制について手立てを示すべく、研究を進めております。中間発表会では、連携協力校の先生方を始め多くの方々に参観して頂き感謝しております。今後も役立つ提案ができるよう研究を進めて参ります。

日々の教職大学院での学びとして、10の専攻共通科目と30をこえる選択科目が準備されており、院生は自らの学修計画に即してアクティブに取り組んでいます。

学びを実感する日々

[学卒院生 (M1)] 小原 俊介

大学院の授業では、現職院生の経験を交えた豊富な知識と学部卒業生の柔軟な知識を融合させ、知識をさらに深めることや新たな視点を生み出すことなど、多くのことを学んでいます。理論と実践の往還の中で、ここでの学びを実感する日々が次第に増え、学びへの意欲がさらに深まりました。岩手の教育に貢献できるよう、今後も努力していきます。

助け合い教え合い刺激を受ける日々

[現職院生 (M1)] 伊藤 綱俊

4月からあつという間に3ヶ月が過ぎました。毎日の講義では、学校カウンセリング、岩手の教育課題、カリキュラムづくり、教育心理、実践のリフレクションなど、現場で必要な様々な専門的内容について深く学んでいます。第3期生の現職8名、学卒10名で、助け合い、教え合い、刺激を受けながら日々学習に励んでいます。

教育学研究科教員挨拶

副研究科長 立花 正男

本学の教職大学院がスタートして、3年目になりました。過去2年間は試行錯誤の中、岩手県教育委員会や盛岡市教育委員会及び連携協力校との密接な連携の下で、専門実習を中心として、理論と実践を往還する探究的な省察力を育成できることを目的に取り組んできました。授業は、現職院生と学卒院生が協同して学び合う学修形態で行い、学校現場の今日的な課題を題材とした、事例研究や討論を中心とした授業方法を取り入れることによって、互いに刺激合って深まりのある学修になっているものと思います。院生の皆さんは、自分の目的をしっかりと、近年の学校教育が抱える複雑・多様化する課題に対応できる力を身に付けていただきたいと思います。

